

山ノ内町消防団幹部と山ノ内町議会議員との懇談会 結果報告書

日 時	令和6年11月13日 (水) 午後6時30分から午後7時50分まで
場 所	山ノ内消防署「会議室」
出 席 者	山ノ内町消防団幹部 竹田団長、中村副団長、田中東部分団長、黒鳥東部副分団長、宮崎南部分団長、養田南部副分団長、青木西部分団長、佐藤西部副分団長、下田北部分団長、大給北部副分団長、坂本女性部長、湯本消防課長、高相課長補佐、 山ノ内町議会議員 白鳥金次(副議長)、山本光俊(議運委員長)、渡辺正男(広報委員長)、高田佳久(社文委員長)、徳竹栄子(議運副委員長)、湯本るり子、塚田一男(総産委員長)、志鷹慎吾、小林仁(広報副委員長)、畔上恵子(社文副委員長)、小田孝志(総産副委員長)
議員役割分担	総括責任者 塚田 一男 司会進行 塚田 一男 報告者 塚田 一男 記録者 小田 孝志
次第(担当者)	1. 開会(常任委員長) 2. あいさつ 白鳥副議長, 竹田団長 3. 自己紹介 4. 懇談事項 (1) 消防団改革後の現状と課題 (2) 団員確保について (3) その他 5. 閉会(常任委員長)
主な質疑内容・意見・提言	(1) 消防団改革後の現状と課題 東部分団長: 消防団事業も見直され、若い方の家族には好評です。これまで4月から6月までの週末は、ほぼ潰れていましたが、それが数回になり飲み会もほぼなくなり、楽になったと感じている。改革して良かったかなと思っています。東部分団は3部に再編されたが、そこについてはあまり変わらない。楽になったとは感じていない。 南部分団長: しばらく消防団を離れていたなので、この改革がされた経緯がよくわからない。なぜ組織改革されたのか。 消防課長: 消防団員のなり手不足解消のため始めた。部を統合して、枠組みを大きくし、その中で不足した人員を補っていく部分を考慮して始めた。

南部分団長：南部分団では、格差が大きい。人が多いところは活発にできるし、少ないところはそれなりとなっている。ずっと課題は変わっていない。結局人がいないことが一番大きいと感じる。色々考え方を変えて、やっていかないといけないと思う。

塚田議員：西部分団は、部の定員も含め現状維持となっているが、このまま維持できるか見通しを聞かせて欲しい。

西部分団長：今年は、新入団員が1名で、若い人が入団することは、なかなか難しいという意見もある。

現団員からは、今の現状が家族からとても評判がいいと聞いている。昔は、独身者が多かったのですが、今は家族がいる団員が8割りなので、今の状況はありがたい。

塚田議員：北部分団は現状維持ですが、何かありますか。

北部分団長：北部分団は、今のところ現状維持なので、特に問題はありません。

塚田議員：それでは、議員の方から何かありますか。

高田議員：分団としての地域への携わり方をお聞きしたい。（密に連携している、訓練を一緒にしているなど。）

東部分団長：各部、各班で違うと思いますが、側溝のドロ上げをしたり、支えあいマップの作製や区の忘年会に出席したりしています。（地域からの補助金の意見も出たが、公式の場では地域からの補助金について議することはないため割愛する。）

南部分団長：南部協議会と懇親会を開くなど、密にコミュニケーションをとっている。若い人の地域活動の入り口として、消防団活動は有益と感じる。南部地区は、どこの班も地域とよく連携していると思う。

色々手厚くしていただいているので、各班とも地域に対しそれなりの活動はしないといけないと思っている。

西部分団長：西部分団は、地区の役員と連絡先を交換するなど、コミュニケーションはある程度とれていて、何かあったら連絡してくださいという状態になっている。

北部分団長：区とは放水訓練などの訓練を行っている。活動に対し手厚くしていただいている。

高田議員：地域の方たちとのコミュニケーションを取ることはないのか。

東部分団長：そういったことは、東部に関しては行っていない。

南部分団長：地区のことは、把握していない。

西部分団長：西部分団から企画して交流を持つことはしていない。

北部分団長：交流も持つ機会はほとんどない。

高田議員：改革にあたり、消防委員会の中で地域との繋がりをなくさないよう、務めてくださいと要望した。事務局もそれについては了承していたが、コロナもあり、交流も希薄になっていると感じる。

昔は、観閲式などの後に祝賀会を行い地域との交流を図って

	<p>いる部も多かったが、それもなくなってきた。飲むことも嫌だという方もいるかもしれないが、そういった席でできる話もあるのではないかと考えている。</p> <p>坂本女性部長：他の市町村では、観閲式をまだやっているところもある。そういったところでは、父親がやっているところを見て、家族が誇りに思っているところもある。団員不足の中では、観閲式等をやれば、住民に周知できることもあるのではないかとと思う。（事業を復活させた方がよいという趣旨ではないとのこと。）</p> <p>塚田議員：各分団の再編について、課題等ありましたらお話し願いたい。</p> <p>竹田団長：再編で、不便さとか消防団の活動について、問題はないと思っている。</p>
	<p>(2) 団員確保について</p> <p>塚田議員：現在の団員数について、お知らせください</p> <p>高相課長補佐：団員数ですが、定数が417名で昨年が403名、今年が407名で、今後3名入団する予定があります。</p> <p>塚田議員：機能別消防団員は、そのうち何名ですか。</p> <p>高相課長補佐：123名。</p> <p>塚田議員：団員の確保について、ご意見が伺いたい。</p> <p>東部分団長：勧誘の際、本人に会えないことが多い。東小学校の泥上げを正副分団長の班ですが、こういった機会に子供と触れ合って将来的に確保につながればなと思うし、そういった機会が増ええるといいと思う。</p> <p>南部分団長：人がいなく、勧誘もできない。新しく入る人がいないから、抜けられないといった状況が続いている。</p> <p>西部分団長：勧誘に行っても、本人に会わせてもらえない。昔は親がそうでしたが、今は奥さんが合わせてくれないことが多くなっているようです。</p> <p>団員の負担軽減とか、消防団改革が見てすぐわかるチラシがあればいいなという希望もある。</p> <p>北部分団長：北部は確保する人がいない。</p> <p>坂本女性部長：女性部員は西部地区にはいません。女性部は本部付けなので、地区は分けることはしていませんが、地区で災害があった際は、各地区の部員が行くことになっています。西部は今のところ北部が行くことになっている。その部分で負担が増えていることもある。今の女性部は、地域おこし協力隊の方などに入っている。</p> <p>また、年に一度、女性部通信を発刊して活動などを伝えたりしているが、なかなか入っていただくことができない状況である。</p> <p>竹田団長：幹部の選出も大変で、副団長はぎりぎりの日程で決定し、南部は副分団長が第1回の会議には出ていない状況でした。</p> <p>中村副団長：自分の地域では、外へ出て行ってしまいう子供が多く、</p>

いつまでも同じ人間で活動することになる。

また、人の性格はそれぞれで、今は大勢でまとまって動くことが苦手で、消防団に入らないという方もいる。

これから人口も減っていく中で、ポンプ操法などがなければ60歳過ぎまでできるのかと不安に思っています。

徳竹議員：現在女性部は何名。

高相課長補佐：9名です。

徳竹議員：様々な事業が見直され、とても良いと思いますが、日頃の訓練はどのように行っていますか。

竹田団長：ポンプ操法集中訓練を5月から6月かけて実施しています。今年は秋も実施する予定。各班で、消防署で署員指導のもと行い、消火訓練や放水訓練など行っています。また、その他の月は、各班で計画して訓練を行っています。

徳竹議員：議員になって初めて観閲式を見たが、とても感激して住民の方に見ていただきたいと思ったが、負担軽減のことを考えると…。そんなことを少しやっただけだと思います。

坂本女性部長：今年入ってくれた南部の方は、1月の災害を見て何か地域の力になれることがあるのではないかと思います、入団してくれました。団に入ると署員の方にご協力いただき、いろいろな資格を取る機会もあるので、そういったことを広めると、入っていただける方もいるのかなと思いました。

渡辺議員：消防団員勧誘のリーフレットなどがあれば、置いておくこともできる。そういったものは、作っていませんか。

高相課長補佐：国や市町村で作っているものは、少し硬いので、もう少し軟らかいものを作ろうと検討しています。

先月の広報やまのうちでも1ページを割いて、活動を掲載しました。今後、作成するチラシにも反映させたいと思っています。

畔上議員：勧誘するにあたっては、気を引くような内容であれば「ちょっと見てみようかな」という気持ちになると思う。そういうのがあったらいいなと感じました。将来的なことを考えた時には、子供達に消防団を理解していただく教育とか、啓発とかが必要かと思っています。地域に必要な団体だと思うので、そういったところに力を入れていったらいいのかなと思います。

高田議員：広報であれば、SNSを活用することも、一つの方法ではないか。

消防団の活動は、なかなか見えづらいので、そういった形で見せるのもよいのではないかと思います。

塚田議員：以前の団員アンケートからも出ていまして、団員の活動を分かっていただけではないことが、一因ではないかという意見もありました。

湯本課長：そういった部分で地域の方に分かっていたくことは、大切はことですので団幹部と相談しながら、新たなチラシで十分地域の皆様に分かっていただけよう努力していき

	<p>いと思います。</p> <p>また、畔上議員からありました、子供に対する教育に関してですが、消防団の事業ではありませんが、今年の火災予防週間に一日消防隊員として小学生を募集し体験していただきました。</p> <p>渋の温泉街などでの、火災予防パレードにも参加していただきました。こういったことで将来を見据え、消防課としても、消防署としても何らかの動きはしているのご理解していただきたいと思います。</p> <p>小林議員：活動されてきていて、報酬などが個人に支払われ、ご家族が喜んでいるといったこともあり、消防団に入団するハードルが下がったのかなと思います。広報等で、今皆さんが頑張っていることを周知する側面もありますが、議員の私達が皆さんに何かできるといった側面はあるのかなど。皆さんにこんなことを実施ほうがいいのではという話よりは、こんなことを議会や町としてやってもらえないのかという話をお聞かせ願えればと思います。議会として町へ上げていかなければならないのかなと考え、お話を聞かせただければと思います。</p> <p>東部分団長：消防団組織は、必ず自治体に設置しなければいけない組織だそうですが、今日の捜索も昨日の夕方連絡があったのにもかかわらず、約 80 人もの団員が集まる凄い組織だと感じました。この組織を将来にわたり維持していかなければならないので、今後もお力添えをお願いしたいと思います。</p> <p>志鷹議員：人員不足で悩まれているとのことですが、少人数でもできることを考えていくことも必要ではないか。ドローンなどの活用について検討してはどうか。若者にアピールできる、少人数でも活動できる方策を検討してもよいのではと思う。</p> <p>湯本議員：能登半島の地震などもあり、消防団員はなくてはならない組織だと改めて思います。そんな中で、AED などの使い方の講習もあったらいいのと思います。</p> <p>塚田議員：会議の前の貴重な時間を割いていただき、ありがとうございました。今後も継続して、懇談させていただければと思います。</p>
<p>主な意見提言</p>	<p>○団員勧誘時における課題は、改革前と変化がない。</p> <p>○団員勧誘時における、団活動のPRを兼ねたリーフレットの検討。</p>
<p>その他反省事項等</p>	<p>○消防団幹部会議に日程を合わせたことから、時間が十分でなかった。</p>